説教20200705フィリピ1：22-30　Ⅱ195 354 355

「あなたがたの救い」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちのうちにもおのぞみ下さい。

　二週間ぶりにフィリピの信徒への手紙を読んでまいりましょう。パウロは本日の聖書箇所の直前２１節で「わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです」と言いました。これはパウロが**私の**救いについて言い表した究極的な箇所ですが、それに続く本日の聖書箇所では、パウロは私の救いに留まらず、**私たちの**救いについて語ってくれるでしょうと言って、二週間前の説教を終えた思います。しかし、本日の聖書箇所にあたってすぐに気づかされたのは、パウロは私たちの救いについて語っているのでなく、**あなた方の**救いを語っているということでした。私たちの救いとあなた方の救い、この両者の違いとは何だろう、そのようなことに思いを巡らしながら黙想していますと、私たちの救いとあなた方の救い、この二つはずいぶん違うことだなあと思わされました。

　例えば、私事で恐縮ですが、わたしは、神学生の時、東京都杉並区にあります、井草教会で奉仕をしていました。井草教会の兄弟姉妹との聖徒の交わりは、その時の**わたしたち**にとって大変みのりあるものでした。ですから私は今、井草教会を離れましたが、その兄弟姉妹との交わりは今でも続いています。しかし、私は、今や、井草教会の兄弟姉妹を**あなた方**と呼ぶでしょう。今でも私が井草教会の兄弟姉妹を私たちと呼び、私たち扱いしていれば、かえって、おかしなことになってしまうでしょう。

　マルチン・ブーバーというユダヤ人は『汝と我』という著作、もっと分かりやすく訳せば『あなたと私』という題なのですが、人間が結ぶ関係は、あなたと私という関係で続いて行くことで深まっていくと述べています。あなたと向き合って、日々私とは違うあなたと接することによって、あなたと私の関係は深まっていくのです。より分かりやすく言えば、イギリス民謡の「大きな栗の木の下で**あなたと私**仲良く遊びましょう。」という風に、いつまでもあなたと私であり続けるということが、大事だということです。

　しかし、あなたと私の関係を続けていくことはなかなか骨の折れることです。ですから私たちは、あなたを「その人」扱いして、安定を得ようとします。しかしブーバーはそのような安定は偽りのものであるといいます。私たちは多少しんどいながらも、あなたと向き合って日々を送っていかねばなりません。

　しかし、ここで私たち日本人には大きな壁が立ちはだかっているように思われます。それは日本語では、**あなた**とか**あなた方**とか云うこと自体を避ける傾向があるということです。確かに本日の聖書箇所には、あなた方という語句が１１回も出てきて、フィリピの信徒への手紙全体では５０回ほど出てきます。しかしこれは原文のギリシャ語の通り訳せばそうなったというだけの話で、実際、私たちが今取り交わす手紙やメールでこんなにたくさんのあなた方、あなたを使うのはなかなか難しいことではないでしょうか。

少し頭の痛い問題に立ち入ってしまいましたが、パウロの言うあなた方の救いと、私たちの救いとの違いについて考えるとき、この**あなたと私の境界線の問題**は避けて通れないことなので、ちょっと覚えておいていただければと思います。

　では本日の聖書箇所に入ってまいりましょう。２２節から「けれども、肉において生き続ければ、実り多い働きができ、どちらを選ぶべきか、わたしには分かりません。 この二つのことの間で、板挟みの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。」パウロは今にでもこの世を去って、キリストと共にいることを望んでいます。しかし一方では**あなた方**のために、あなた方の信仰を深めて喜びをもたらすように肉において生き続けるべきと考えます。この両者の板挟み状態でパウロは葛藤しています。この聖書箇所でパウロは自身の人間的な一面をさらけ出しているように思います。なぜならば、本来、この世に留まるか、この世を去るかということは、主なる神がお決めになることでありますので、このように葛藤をするまでもないのですが、パウロはわざとこのように書いたのかも知れません。

パウロは今監獄の中にいて、明日にでも処刑されかねない境遇で暮らしています。そのような**私**、パウロの置かれた境遇と、**あなた方と**の境遇は大いに違ったものでした。しかしパウロは、あなた方のことを思い続けることが出来、あなた方のために手紙を書き続けることが出来ました。このように私パウロとあなた方とが一体であり続けられたのは、なぜでしょうか。そのことは２５節から記されています。「こう確信していますから、あなたがたの信仰を深めて喜びをもたらすように、いつもあなたがた一同と共にいることになるでしょう。そうなれば、わたしが再びあなたがたのもとに姿を見せるとき、キリスト・イエスに結ばれているというあなたがたの誇りは、わたしゆえに増し加わることになります。 」　わたしパウロが再びあなたがたのもとに姿を見せるときとは、具体的にフィリピの町を再び訪れるときのことを念頭においてパウロは記していますが、明日どうなっているか分からない獄中にあって、このように書けるということは、キリストとともに永遠に生きるという信仰なくしては無理なことと思われます。２６節の「私が再びあなた方のもとに姿を見せるとき」という字句をよくよく味わうと、かの日に、キリストのもとで私パウロとあなた方一同とが再会している姿が浮かび上がってまいります。それは黙示録の言葉を用いるならば、新しいエルサレムの町で、私たちが一つとされて、永遠の喜びの内に生かされるということです。

　私たちが新しいエルサレムの一員に入れられる、ということはこの世の旅路、例えばパウロがフィリピの町への再訪を熱望し、それを具体的に計画していたということと、ここで重なり合って参ります。つまりこの地上生涯での旅路と、新しいエルサレムへの旅路とはつながっているのです。この世における私と、あなた方の旅路でますます信仰が深まり喜びが深まっていくことは、新しいエルサレムでの生活のさきがけであるともいえましょう。新しいエルサレムは私たちの前に、いわば魔法のようにパット立ち現れる、というようなものではなく、私たちが、主なる神に向かって、日々どんな境遇に置かれようともイエス様と共に歩んでいる内に、入れられていくところである様に思います。

　２７節から、パウロは、あなた方に対して、この地上生涯を歩んでいく上での心がけや注意事項を非常に具体的に記しています。「あなたがたは一つの霊によってしっかり立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦っており、どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。 」パウロの前には多くの反対者が現れました。反対者とは具体的にはパウロがあの犬どもと呼んで激しく非難した、救いのために割礼を強制しようとする考えの持ち主などを指していると思われます。いうまでもなく、私たちクリスチャンは、イエス様をただ一人の救い主として信じていて、その信仰だけが、クリスチャンのしるしですが、そこに割礼などという別の条件を持ち込もうとする者が要れば大変厄介なことになることは目に見えています。私たちは一つの霊すなわち一つの聖霊によってそのような偽りを退けていかねばなりません。この手紙に記された割礼という事柄は、今の私たちにはなじみがなくて、身につまされることとして捉えられませんが、私たちも、今このような偽りごとに取り巻かれているといってよいでしょう。例えば、コリントの信徒への手紙１　１５章１２節から、新約聖書の３２０ページですが、パウロは死者の復活などないと言い切っている人たちのことを記しています。私たちクリスチャンはまさに死者が復活する信仰を深めていこうとしているのに、近くでこんな風に言い切られてしまっては、本当にたじろいでしまいますね。パウロは具体的にそのような人たちから影響を受けないようにすることが大事だと説いています。そのような人が「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」などということに耳を傾けてはならないといいます。パウロは言います。どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。そうです。あなた方は、今の世で「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」といったようなことを繰り返し聞かされるでしょう。しかしあなた方は一つの聖霊に満たされていることで、そういった思いや風潮に染まることを逃れることが出来ます。

　私パウロは言います。「つまり、あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。 」パウロは我が身に起こった苦しみと恵みを思い起こしつつ、あなた方に伝えています。パウロは言います。「苦労したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。 鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。 苦労し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渇き、しばしば食べずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともありました。」そして今やパウロは牢獄に入れられつつ、世を去ってキリストと共にいることの喜びをあなた方に証しをしているのです。

私パウロは自分が経て来た私のこうした戦いを、具体的にあなた方に示し、そして、やがてあなた方の戦いもキリストからの恵みであると思える時が来ることを証言しているのです。

　私パウロは獄中にいて、あなた方、フィリピの信徒たち一堂に向き合っています。そしてあなた方の信仰がますます深まり、喜びに満たされるようにと祈りつつこの手紙を記しました。

　翻って、私たちもこのように、パウロの言葉と向き合ってそれを受け止めていくことが出来るでしょう。私たちもやがて、定められた時に、この世を去りますが、既に世を去られて身許で安らかに憩っている「あなた」からの執り成しの祈りを私たちは日々受け止めてこの地上生涯を歩んでいくことが出来るのです。そしてキリストの来るかの日には、再び私たちは、その「あなた」と再会して、その時に、あなた方の救いは、再び私たちの救いとなることでしょう。

お祈りします

天に居ますわたしたちの父なる神様、今日御前に私たち兄弟姉妹を集めて下さり、あなたを礼拝し、賛美することが出来ます幸いに感謝します。私たちの兄弟パウロが語ったように、この世での役目を終えて、身許に召される時、私は、あなた方にキリストと共にいる喜びを伝えます。そしてキリストの日にまた私たちがあなたにあって一つとされることを待ち望んでいます。どうかその時の喜びを、今の日々において、ますます増し加えてくださいますように。苦難の日々をも、やがて喜びと変えられることを信じて歩んでいくことが出来ますように。

　今恐れと、苦しみの内にある方々を、愛の御手によって守り支えてください。殊に先週

金曜日の夜から熊本・鹿児島地方が大雨に見舞われ、大水により多くの方がなくなられました。どうか亡くなられたお一人お一人をあなたが守り、あなたのみ旨を成し遂げてくださいますように。

　私たち教会の歩みも、世にある多くの悩み、苦しみの内に、疲れつまづくことも多いこの頃ですが、どうか私たちがあなたの御前にひれ伏すことによって、又私たちに新たに立ち上がる力をお与えください。来週、再来週と、他の教会との交わりの時が持たれますが、私たちがあなたによって一つの者とされて行きますように。

父と聖霊と共に一体であって世々に生き支配しておられます、私たちの救い主イエスキリストのみ名によってお願いいたします。